

修了生通信

あしはら

2022年3月

部落解放・人権大学講座
2021年度 修了生通信

無自覚の差別、マイクロアグレッションと向き合う

部落解放・人権研究所 理事 ・ 解放大学講師 川口 泰司

最近、人権研修などの場で「マイクロアグレッション」(無自覚の差別)という言葉をよく聞くようになりました。「明らかに差別だ」とは言えないが、無自覚にマイノリティを傷つけることを言います。

例えば、部落問題の話題になったとき「寝た子を起こすな」「部落差別はもうない」「優遇・逆差別」「同和利権」「部落は怖い」などの発言を身近な人から聞いたときに、私の胸はチクチク、ザワザワとした気持ちになります。私に対する直接的な差別的言動なら「それは差別だ！」と相手に抗議ができます。でも「差別だ！」とまでは言えない言動で表出するから、マイノリティは抗議できず、傷けられたままでダメージが蓄積されます。この傷を差別問題として捉えることができないから、傷ついている自分が意識しすぎなのだろうかと個人の心のもちようの問題に矮小化されてしまい、マイノリティはモヤモヤ、チクチクとした痛みを抱え続けていきます。

「マイクロアグレッション」という概念は、あくまでマジョリティからマイノリティに対して向かうベクトルであり、その逆は成立しません。マジョリティとマイノリティにおける社会的権力構造の非対称性が前提となっており、その権力性・差別性を日常の個人レベルでも自覚しやすくするためのフレームとして生まれた概念です。社会の差別構造が個人間の日常の関係性においても生じるので、場所や相手が変わってもマイノリティは継続的・長期的にそれらの言動の被害を受け続けます。

マジョリティの側も「傷つけている」「嫌な思いをさせている」という自覚がないため、マイノリティから「傷ついた」「差別だ」と指摘されると、「悪意はなかったのに、自分を差別者呼ばわりしないでくれ」と不快感を示されることもあります。さらに、「こんな小さなことで『差別だ』『傷つけられた』と言われたら何も言えなくなる。だったら、傷つけるのは嫌だから、そういうマイノリティとは関わらないようにしよう」と距

離を置くようになり、かえって、その差別問題を理解する機会を逃していきます。

人権研修の場においては、個人間の問題のように見えるものが、実は社会的な差別の問題であるということに気づく学習が大事です。「マイクロアグレッション」を引き起こす背景には、個別の差別問題やマイノリティ集団に対する無知や無関心、無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)が大きな要因となっています。だから、差別問題を「思いやり」「やさしさ」などの一般的な個人の心の問題に矮小化するのではなく、その差別問題の歴史や現状、社会問題としての構造的差別の仕組みなどについて学習を深めることが求められています。また、マイノリティに生じている「日常に組み込まれた差別・偏見」にはどのようなものがあるのかを意識して学ぶことで、マジョリティが自身の「無自覚の差別・偏見」に自覚的になることが大事です。

アメリカ発のマイクロアグレッションの議論をここまで見てきて、解放大学の卒業生のみなさんなら、もうお気づきかと思います。「あれ？これって解放大学の自己啓発や学びのなかで、自分たちが経験してきたことと似ている」と思いませんでしたか。そうなんです。戦後の日本では部落解放運動や同和教育のなかで、自らの無自覚の差別、被差別性と向き合い、そこから解放されていく学びを大事にしてきました。解放大学はその視点を大事に運営してきました。「自分は差別なんかしていない」「自分のまわりには差別なんてない」ではなく、差別は見ようとしなければ見えないし、見抜く力がないと見抜けません。だからこそ、私も自分の人権意識と知識、人権基準をつねにアップデートし続けていくようにしています。

今年は全国水平社創立 100 年の節目、「人の世の熱と光」を求めて、これからもがんばっていきましょう。

オンライン2年目の解放大学

2020年度につづいて、新型コロナウイルス問題への対応から、2021年度も解放大学はオンラインを基本に開講しました。今年度は、第117期となり、企業、自治体、大学から57人の方に受講いただきました。

前年度の経験をいかして

2020年度の第116期でのオンライン実施の経験をいかし、開講中も含め改善、改良していくことを心がけ、次ページのプログラムを設定しました。

まず、開講時期は年末および年度末を極力避けることを意図し、6月30日に開講、翌年2月17日までの約7ヵ月間、全24日間のプログラムをおおよそ週1回ペースで進めました。

昨年度につづいて、オンラインでの利点を生かして、当研究所が主催する人権啓発東京講座（全12日間）との合同プログラムとして実施しました。

開講日には、オンラインでのワークショップをはじめに行いました。開講当初から東京講座、解放大学ともに班編成を行い、班のメンバーの交流を通じて、共に学ぶ仲間としての意識を高めました。

その後、6日目までは、部落問題（歴史や現状）を軸に講座を進め、7日目からは多様な差別・人権問題に関する講座を設定しました。

講座の時間を15分増やして、Zoomのチャット機能を使った質問や感想の送付、ブレイクアウトルーム機能を使つてのグループディスカッションなどを各講座に組み入れ、講師および受講生同士のやりとりをできるだけ増やすようにしました。

オプション参加の現地フィールドワーク

今年度に新たに取り組んだことは、現地フィールドワークの実施です。

オンライン講座を基本にしているため、希望された方がオプションで参加できるように、オンライン講座と連携させて、3つのコース（高槻、堺、釜ヶ崎）を設定しました。

現地フィールドワークに参加する受講生は、講座（講演）を現地で直接聴講し、その後にフィールドワークに参加しました。各コース、10人前後の受講生が参加しました。

班単位で取り組んだ「グループゼミ」

対面実施の解放大学での特徴的なプログラムとして実施していた「自己啓発学習」は、オンラインでの実施は難しいとの判断から、昨年度に続いて、「グループゼミ」に取り組みました。

ゼミ（班）の人数は7～8人で編成し、各班お二人の助言者にアドバイスや議論のサポートをしていただきました。

ゼミの前半は、それまでの受講をふりかえり、「学びとなったこと」や「よくわからなかったこと」を共にふりかえりながら、修了課題となる「自由課題研究レポート」で取り組む「自分のテーマ」について考えました。班員一人ひとりが自分のテーマを設定した理由や背景、レポートの構想を発表しながら、助言者も交え、意見やアドバイスを交換しました。

年明けの後半3日間は、いよいよ各自のレポートを発表していきました。最終版の完成に向けて、よりよいレポートにしていくために意見交換を重ね、2月9日には最終版のレポート発表を行い、7日間にわたるグループゼミを終えました。

オンラインの中での模索

このように、今年度もオンラインではありましたが、メンバーの相互の関わり合いの中で展開した7日間の取り組みとなりました。

解放大学が大切にしている共に学ぶ仲間の意識も一定醸成されたように思います。

本来の業務をもちながらの解放大受講は、コロナ対応とも相まって大きな負担となったと想像しますが、多くの時間と労力を注いで受講した解放大学の成果を今後精一杯いかしていただくと主催者として願うばかりです。



今年度も Zoom でのグループゼミに取り組んだ

2021年度 部落解放・人権大学講座(117期) プログラム

| 回 | 日程 | 午前 講座1 | 午後 講座2 | 午後 講座3 |
|----|------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| | | 9:45~11:30 | 13:00~14:45 | 15:15~17:00 |
| 1 | 6/30(水) | 9:15~開講式(合同) 【開講ワークショップ】 梶山 武志さん | 【記念講演・人権と憲法】 小林 節さん | 【部落問題のいま】 川口 泰司さん |
| 2 | 7/7(水) | 【企業と人権～部落問題を踏まえて】 柄川 忠一さん | 【差別をなくす社会システムのあり方】 北口 末広さん | |
| 3 | 7/14(水) | 【同和・人権行政のあり方】 奥田 均さん | 【マジョリティの特権を考える】 出口 真紀子さん | |
| 4 | 7/19(月) | 【日常の中の部落差別】 上川 多実さん | 【部落の歴史(前近代)】 上杉 聡さん | |
| 5 | 7/29(木) | 【差別戒名からみた部落問題】 高橋 典男さん/人権センターなかの | 【部落の歴史(近現代)】 渡辺 俊雄さん | |
| 6 | 8/5(木) | 【同和・人権教育の経験から】 土田 光子さん | 【部落解放運動がめざすもの】 赤井 隆史さん | 【部落問題～私の歩んできた道】 組坂 繁之さん |
| 7 | 9/2(木) | 【職場のハラスメント問題を考える】 内藤 忍さん | 【メディアと人権～SNS時代、今や貴方も発信者～】 下村 健一さん | |
| 8 | 9/9(木) | 【障害者×就労】 小野 貴也さん | 【青少年(性教育問題)】 染矢 明日香さん | 【ヘイトスピーチ・フェイクニュース】 金 尚均さん |
| 9 | 9/16(木) | 【ハンセン病問題と人権】 原田 恵子さん | 【LGBTも働きやすい職場とは】 中島 潤さん | 【ホームレス問題】 北村 年子さん |
| 10 | 9/22(水) | 【コロナ禍におけるアジア人差別】 ～世界の現地から～ | 【子どもの人権】 小笠原 舞さん | 【写真で伝える世界と日本】 安田 菜津紀さん |
| 11 | 9/28(火) | 【夫婦別姓】 作花 知志さん | 【性犯罪・性暴力被害者の実情】 小川 たまかさん | 【見た目問題】 外川 浩子さん |
| 12 | 10/6(水) | 【在日(外国人問題)】 朴 基浩さん | 【日本のHIV・AIDS問題の今】 高久 陽介さん | 【総括講演・人権啓発】 竹内 良さん 修了式(東京講座)～17:30 |
| 13 | 10/14(木) | 【ジェンダーと人権】 源 淳子さん | フィールドレポート | 【障害者の働く権利】 尾上 浩二さん |
| 14 | 10/20(水) | 【移住労働者の人権】 藤本 伸樹さん | フィールドレポート～高槻・富田地域から | 【新型コロナ問題と人権】 松村 元樹さん |
| 15 | 10/28(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 16 | 11/4(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 17 | 11/18(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 18 | 11/25(木) | 【情報と人権】 北口 末広さん | フィールドレポート～堺・船松人権歴史館から | 【人権研修の基礎基本】 堀井 悟さん |
| 19 | 12/2(木) | 【司法と人権】 大川 一夫さん | フィールドレポート～釜ヶ崎地域から | 【人権相談の基礎基本】 桑野 里美さん |
| 20 | 2022年 1/13(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 21 | 1/20(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 22 | 1/27(木) | グループゼミ | グループゼミ | グループゼミ |
| 23 | 2/9(水) | 修了レポート発表(グループ) | 修了レポート発表(グループ) | 修了レポート発表(グループ) |
| 24 | 2/17(木) | 【修了ワークショップ】 梶山 武志さん | グループ ゼミ報告 | 【記念講演 水平社創立100年】 友永 健三さん 修了式 |

※第1回～12回は、部落解放・人権大学講座と人権啓発東京講座との合同プログラム。

115 期修了生研修会(オンライン)

2019 年度の第 115 期解放大学の修了生研修会を 2021 年 9 月 3 日(金)午後 4 時より、オンライン(Zoom)で行いました。

115 期は、2020 年 2 月に顕在化した新型コロナウイルス問題への対応から、全 24 日間のプログラムの内、最後の 2 日間を残して終了していました。

終了時には 1 年以内をめどに修了生が再び集い、プログラムの区切りをつけたいと考えていましたが、新型コロナ問題はその後にも収束に至らず、時間が経過していました。

そのため、講座事務局の提案で、修了から 1 年半が経過した 2021 年 9 月、115 期修了生研修会をオンラインで行うことにしました。平日夕方の開催でしたが、研修会には 115 期修了生 65 人中、約半数が参加しました。

研修会は、受講当時のプログラム最終日に予定していたワークショップをオンラインで行うというイメージで実施しました。

開講日に書いた修了日の自分にあてた手紙があり、事務局で保管していたものを事前に各修了生に郵送で返却し、その手紙をもとにワークショップを始めました。

手紙を開封し、当時をふりかえり、当時の自分に対して返事を書きました。修了から 1 年半の出来事や気持ちの変化を確認するという目的です。

Zoom の機能を使って、受講当時の班に分かれ、それぞれのふりかえりを共有し、全体でも報告をしました。さらに、解放大学での学びと経験をいかして、これからどうしていくのか、今後に向けての目標づくりも共に行いました。

ワークショップ終了後は、自由参加によるオンラインでの懇親会も行いました。

コロナ問題が落ち着き、今回は、修了生がリードして再会できる機会がつくられればと事務局では期待しています。

解放大学同窓会もオンラインで開催

2014 年の開講 40 周年を機に発足し、現在は 2 年に 1 度開催している部落解放・人権大学講座(解放大学)の同窓会を 2021 年 10 月 23 日(土)に行いました。発足後、第 5 回目となります。

新型コロナ問題への対応から、解放大学は 2020 年度、2021 年度とオンラインを基本に実施しましたが、同窓会も講座同様、オンライン(Zoom を活用)で開催し、オンライン解放大学を体験いただく機会にもしました。また、初めて土曜日に行いました。前回とほぼ同じ、約 40 人の修了生が参加されました。

総会は、同窓会副会長の部谷佳昭さん(78 期)の司会で開会。会長の堀井悟さん(23 期・107 期)のご挨拶の後、来賓として当研究所の谷川雅彦代表理事、大阪同和・人権問題企業連絡会の四方一郎常務理事からもご挨拶いただきました。

その後、事務局より、前回総会以降の活動報告を行いました。例年、事務局で推奨してきた修了後の取り組みがいくつかの期で行われていましたが、新型コロナ問題発生後の 2020 年から 2021

年にかけては、どの期も行うことができていないという残念な報告をせざるを得ませんでした。

総会に続く記念講演は初めて修了生に担当いただきました。2020 年度から解放大学の助言者も担当いただいている堀篤子さん(111 期)に、「障害者として生きてきた私が一緒に考えてほしいこと～等身大の障害者問題」と題して講演いただきました。

ご自身の生い立ちから現在に至るまで、学校や職場での被差別体験や差別との闘いなど、障害者として経験したこと、障害者差別について今考えることを語っていただきました。「一緒に考えてほしいこと」を同窓生に語りかけるようにお話されたのも印象的でした。

総会・記念講演のあとは自由参加でのオンライン交流会も行ない、期をまたいだメンバーで交流しました。

今回は 2023 年度に開催予定です。多くの修了生の方の参加を期待しています。

修了生のご活躍

解放大学108期(2014年度)修了の JR 東海、大矢正成さんは、解放大学修了後、社内の人権啓発のお仕事を担われ、活躍されています。解大受講をふりかえって、ご寄稿いただきました。

毎週、早朝に自宅を出発し、名古屋から新幹線に乗車し弁天町まで通いました。またレポートもたくさん提出しました。なつかしい思い出です。解放大学 108 期の学びは、それまで全くとっていい程人権問題に対する知識が無かった私の後の人生を有意義なものにしてくれました。

「最初に間違った知識や物の見方をしてしまうと、人はそこに固執してしまい、それが差別の温床となる可能性があります。だからこそ、正しい知識を学び、知ることが重要です。」「人権問題を疎かにすることは経営リスクに繋がってしまいます。だから人権に関する感性を高めることが大切です。」「こんな切り出しで弊社内人権講義を年 20 回程度行ってきました。

解大の学びから 8 年。多種多様なプログラム、異業種の方々との出会いの中で、様々な人権に対する学びがあり、それを自分の講義に取り込んで活かしております。

私は別の顔として NHK 高校野球解説をしております。そこでも、頭を柔軟にして多様性の大切さを忘れないことなど、人権感覚を解大で磨いたお陰で、試合の中での気づきに繋がり、解説に活かされています。

今夏で甲子園解説も卒業となりますが、人権で育んだ解説をご視聴頂ければ幸甚です。



事務局退任ごあいさつ

2011年度より解放大学の事務局を担当してきました川本和弘は、2021年度で定年退職いたします。紙面をお借りして、一言ごあいさつ申し上げます。

東日本大震災のあった2011年、縁あって解放大学の事務局員となりました。

最初の期は第101期で、1974年の開講から通算100期の大台を超えて、新しい歴史を刻むようなタイミングでした。

多くの受講生、修了生が解放大学の魅力の一つにあげるように、さまざまな業種、年代の方々が長期にわたって共に学ぶことから、自然に人間関係ができ、私も一緒になって講座内外で、そして修了後にも思い出深い交流ができました。

また、「自己啓発学習」など、部落問題をはじめ多様な人権問題に関して、様々な経験や考えを

語り合う解放大学は、事務局の私にもいろんな学びや気づきを与えてくれました。受講生、修了生と過ごした経験とつながりは私にとって人生の貴重な財産となっています。手前味噌ではありますが、解放大学という空間が生み出す「出会い・発見・感動」は他に類を見ないものと自負しています。

最後の 2 年間は思いもよらぬコロナ禍により、オンラインでの解放大学も経験することになりました。悪戦苦闘の2年間でしたが、新たな時代を感じさせるものもありました。

至らぬところ、ご迷惑をおかけしたところの多い私ではありますが、この歴史と伝統ある解放大学の事務局員として関わったことに感謝し、期待を込めて若い世代にバトンを手渡す思いです。

皆さんには今後とも、解放大学をどうぞよろしく願います。

修了生メッセージ

コロナ禍により残念ながら、今年度も修了後の期での取り組みがほとんど行われませんでした。今回も何人かの期の修了生幹事会代表の方にメッセージをいただきました。有難うございます。

○103期 我妻さん

2012年4月に研修生39名でスタートした103期生。卒業後は「会の灯を消さない」を合言葉に、年1回の同期会に拘り続け、昨年12月開催で10年の節目を迎えることが出来ました。12名の参加メンバーから近況報告を受け、お互いを励ましあい、また来年も会うことを誓いあって別れました。解大で学んだ期間はたった6カ月でしたが、卒業後の各人の人生において大きなインパクトとなって、今でも心の中に深く刻まれていることを感じます。

○107期 小松さん

2020年、そして2021年と、ウイズコロナが定着してしまい、なかなか修了生の交流もできないままに過ぎてしまいました。2022年は今年こそと、少ない人数ながら1月に交流会を企画しましたが、またしても「まん防」によって延期せざるを得ませんでした。職場では、新入社員や異動で来られた新しい人も、「マスクなしの顔、見たことないよね」という会話が良く聞かれます。ウイズコロナによって、人と人との距離感がさらに広がってきたと痛感していますが、「ニューノーマル」に即したコミュニケーション、もっと勉強しなければならないのでしょうか。

○108期 音無さん

2021年度受講者の方と話をしましたが、ほとんどがオンラインでの聴講とお聞きして、アフター5のくつろいだ場での意見交換等のない解大の姿を私は想像できませんでした。思い返せば現状のコロナ禍での在宅勤務をはじめとした働き方も以前には想像できなかったものですので、修了生の同期会等も違う形でもできるのでしょうか。

も、コロナが収束した暁にはこの間できなかった濃厚な交流を復活させたいですね。楽しみにしています！

○109期 飯田さん

コロナ感染がなかなか終息しない中、色々な工夫をしながら117期解放大学修了おめでとうございます。Zoomのチャット機能を使う、「グループゼミ」で交流する等、コロナ禍だからできないではなく、コロナ禍だからできることがあることを教えてもらいました。コロナ差別、ワクチンハラスメントなど新たな人権問題が起り、ますます人権研修が必要とされています。解放大学の手法をお手本にして社内研修を実施していきたいと思えます。

○111期 赤井さん

4回目の緊急事態宣言期間が明け、感染者数が落ち着いていた昨年末、「よし来年こそ111期の研修会(同窓会)を行うぞ!」と思っていました。しかし、年明け早々から新たな変異株による感染爆発から、まん延防止措置へと移行。決意も鈍りましたが、手をこまねいて見ているだけなのも悔しいので、秋の開始に向けて準備は進めたいと思っています。再来年(2024年)は、解大も50周年。それまでには、感染が落ち着いていることを祈っています。

○113期 市原さん

勤務先の人事課から「療養休務している職員の復帰先として受け入れて欲しい」とのことで受け入れることに。人は業務遂行する機械ではないので、本人の意思を尊重し「出来る業務からやっとう」と、丁寧に向き合っています。リハビリ勤務は決して順調とは言えませんが、成果とモチベーションの関係が重要である等、様々な気づきがあり、業務について深く考える良い機会になっています。これも解放大学で得た経験のおかげです。

同窓会メールの 登録・更新を

解放大学に関する情報や、部落解放・人権研究所他のイベント情報をメールで発信しています。メールアドレスの登録や変更は、事務局にお知らせください。今後ともつながりをもつていただくと幸いです。

解放大学事務局 メール kaidai40@blhrri.org